認定NPO法人子どもの心理療法支援会(サポチル)主催

子どもの精神分析的心理療法セミナー2022

子ども・養育者・家族と話し合う

― 心理療法からコンサルテーションまで ―

私たちは心理療法の重要性や豊かさを意識しつつも、実際の現場ではそうした実践ができない場合も多くあります。
心理療法はその価値を失いつつあるのでしょうか？実際には、心理療法における対話と理解・協働の実践は、
心理療法以外の支援にも通底するものです。
実際、心理療法家たちは自分たちの専門性を大切にしながらも、
ソーシャル・ワークや里親支援などの中で子どもを理解し、
家族や社会とを結ぶ仕事にも従事しています。
本セミナーでは、子どもとの心理療法の実際、親面接、
そして子どもと家族との合同面接の3つをテーマに学びます。
こうした実践を学ぶことは心理療法以外でも子どもや家族を理解し、
支援していくことに繋がると考えられます。
振るってご参加ください。

第1回 6/26(日)
13:00～18:00
講師：脇谷　順子先生

第2回 8/21(日)
13:00～17:00
講師：吉沢　伸一先生
講師：榊原　久直先生

第3回 9/25(日)
13:00～18:00
講師：平井　正三先生

詳しくは次ページをご覧ください。

サポチル
認定NPO法人　子どもの心理療法支援会

みんなの協力で、子どもたちが心のケアを受けられる社会へ。
〒604-8187
京都市中京区東洞院通御池下ル笹屋町444初音館302
FAX: 075-600-3238　URL：http://sacp.jp

概　要

各セミナーの内容については、次のページをご覧ください。

開催形態：ウェブ会議アプリzoomを利用したオンラインでの開催のみ、会場開催は行いません。

＊第1回・第3回は事例検討を2時間ほど予定しています

第1回

2022年6月26日㊐　13：00～18：00

「子どもとの対話と理解」

講師　脇谷　順子先生
（杏林大学/認定NPO法人子どもの心理療法支援会）

第2回

2022年8月21日㊐　13：00～17：00
＊この回のみ時間が短くなっています。ご注意ください。

「親面接に精神分析的アプローチはいかに寄与できるのか」

講師　吉沢　伸一先生
（ファミリーメンタルクリニックまつたに）

**「こころとからだの成長と回復のメカニズムの再考：
子どもを支える親を支える関係発達臨床の視点から」**

講師　榊原　久直先生
（神戸松蔭女子学院大学 人間科学部 心理学科）

第3回

2022年9月25日㊐　13：00～18：00

「子どもと親との同席面接：振り返り、フィードバック、話し合い」

講師　平井　正三先生
（御池心理療法センター／認定NPO法人子どもの心理療法支援会）

申込要綱

参加対象者

臨床心理士、公認心理師、医師、心理療法に携わっている
大学院生・研修生

定員　100名
先着順　定員となった時点で締め切りとさせていただきます

参加費

①一般枠 ……(1回あたり)8,000円/(全回参加)20,000円
②大学院生……(1回あたり)6,000円/(全回参加)15,000円

申し込み方法

下記から申込フォームにて必要事項と誓約書にご回答ください。

https://forms.gle/E8U2SupKqLzLJXVLA

お問い合わせ

kodomo.seminar@sacp.jpまでご連絡ください。

＊本セミナーは、日本臨床心理士資格認定協会に研修ポイントを申請予定です。
なお、第2回のみの参加では時間数が5時間に満たないため、ポイントの対象となりません。ご留意ください。

詳しくは次ページをご覧ください。

セミナーの内容

第1回

「子どもとの対話と理解」脇谷　順子先生（杏林大学/認定NPO法人子どもの心理療法支援会）

私たちが専門家として子どもと初めて会うとき、多くの場合は、保護者や他職種専門家から子どもに関する何らかの情報をすでに得ています。そうした情報を私たちの心に留めながらも、子どもと私たちが出会い、知り合っていくために、私たちは何をしているのでしょうか。何ができるのでしょうか。「観ること、対話すること、記述すること」が、子どもが自分自身を知っていくこと、私たちが子どもを知っていくことにどのようにつながっていくのかについて、見ていきたいと思います。

■参考文献 ／『乳幼児観察入門』（2019年　創元社）木部則雄・鈴木 龍・脇谷順子監訳

第2回

「親面接に精神分析的アプローチはいかに寄与できるのか」

吉沢　伸一先生（ファミリーメンタルクリニックまつたに）

親面接では、子どもを理解してより適切な関りを模索するためのセラピストとの協働関係の構築が重要であることは言うまでもありません。その構築プロセスの基盤には、親の安全感や信頼感が確保され、内省的に思考する力が育まれていくことが必要です。

しかし、私たちが臨床場面で出会う多くの親（養育者）たちは、それぞれが抱える諸事情により、それらの営みが簡単に成立し得ない場合も多くあります。そのような状況では、私たちはどのように親に対応したらいいのか戸惑うことが多いのではないでしょうか。私自身も明確な答えのない状況で、日々迷いながら悪戦苦闘し、経験から学ぶことに身を置いています。

親面接の形態がいかなるものであれ、そこでの関係性、ひいては子どもとの関係性を踏まえ、顕在的な問題の背後にはどのようなことが生じているのかを体験的に考え理解していくために、精神分析的アプローチは役立ち得る視点を提供してくれます。本講義では、実践をいかに捉えるのかという視点から、とりわけ対応が困難でうまくいかない状況に焦点化し、精神分析的理解に裏打ちされた考える枠組みを提示したいと思います。参加者がそれぞれの現場で工夫して実践していただければ幸いです。

■参考文献 ／1.子どもと青年の心理療法における親とのワーク―親子の成長・発達のための取り組み（津田 真知子・脇谷順子監訳：金剛出版, 2019）
2.児童青年心理療法ハンドブック（平井正三・脇谷順子・鵜飼奈津子監訳：創元社, 2013）
3.Gillian Miles (2012).The work with the parents alongside individual therapy with the children/young people: present and absent parents. In, CHILDHOOD DEPRESSION：A Place for Psychotherapy（By Gillian Miles, Judith Trowell：Routledge, 2012）
4.Jacqueline Godfrlnd (1997). The influence of the presence of parents on the countertransference of the child psychotherapist. In, Countertransference　in Psychoanalytic Psychotherapy　with Children and Adolescents（Edited By Dimitris Anastasopoulos, Brian V. Martindale, Anne-Marie Sandler, John Tsiantis：Routledge, 1997）
5.JOAN OFFERMAN-ZUCKERBERG（1992）. THE PARENTING PROCESS: A PSYCHOANALYTIC PERSPECTIVE. Journal of The　American Academy of Psychoanalysis, 20(2), 205-214

「こころとからだの成長と回復のメカニズムの再考：子どもを支える親を支える関係発達臨床の視点から」

榊原　久直先生（神戸松蔭女子学院大学 人間科学部 心理学科）

子どものこころのからだの成長や回復はカウンセリングの中だけでなく，子どもを取り巻く様々な人間関係の中で生じるものです。裏を返せば，私たち心理臨床家の学びは，狭義の臨床心理学の中だけでなく，発達心理学をはじめとした，様々な隣接領域の中にもあるのではないでしょうか。本講義では，関係発達論と呼ばれる発達心理学の知見やアタッチメント理論の視点を基本としつつ，今日注目を集めつつある非認知能力の発達やSEL（社会性と情動の学習）のメカニズムを再考することを通して，子どものこころとからだの成長や回復が生じる関係性について共に考えていきたいと考えています。そして同時に，そういった関係性をいかにして守ることができるのかについて検討できればと願っています。また，こころとからだの成長のメカニズムを考えることは，その成長の難しさ（障碍）を考えることと表裏一体ですので，様々な発達の障碍を巡る親子のこころの動きについても思いをはせる機会となればと思っています。

■参考文献 ／小林隆児・鯨岡峻（2005）自閉症の関係発達臨床. 日本評論社
大倉得史（2011）育てる者への発達心理学―関係発達論入門. ナカニシヤ出版
篠原郁子（2013）心を紡ぐ心―親による乳児の心の想像と心を理解する子どもの発達. ナカニシヤ出版
北川恵・工藤晋平（編著）（2017）アタッチメントに基づく評価と支援. 誠信書房

第3回

「子どもと親との同席面接：振り返り、フィードバック、話し合い」

平井　正三先生（御池心理療法センター／認定NPO法人子どもの心理療法支援会）

今日の子どもと家族の心理臨床においては、「親が子どものセラピーを支え続ける」という親子並行面接モデルだけでは十分に対応できません。親になることは簡単なことではなく、また義務でもありません。また、親になることを支える外的、内的資源に恵まれない人もたくさんおられます。そうした人たちと、子どもたちが家族になること／家族としてやっていくことを手伝うような臨床が現在重要になっているように思います。本セミナーでは、そうした援助の一環として子どもと親との同席面接について考えていきたいと思います。

■参考文献 ／鵜飼奈津子『子どもの精神分析的心理療法の基礎』誠信書房、ラスティン＆カグリアータ編『こどものこころのアセスメント』岩崎学術出版社
ツィアンティス編『子どもと青年の心理療法における親とのワーク』金剛出版